

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行

第1回フォーラム研究会

逐語録

(木村) それでは、始めさせていただきます。

イニシアティブですけれども、正式に5月16日から始められるということになりまして、フォーラムにも間に合ったという状況です。

今日は明日のフォーラムのための準備会ということで、今年度からは「フォーラム研究会」と会合の名前を変えてやるようにしますので、よろしくお願ひします。特に自己紹介はいいと思いますので、中身に入っていきたいと思います。

まずは資料を確認します。まず議事次第があります(F1-0)。次が、昨年度の報告書の抜粋です。「フォーラムの設計」に関する部分になります。これがF1-1になります。今日は、主にこの資料を用いて、昨年度何を話していたかということの復習と、明日に向けて細かい調整をしたいと思います。次が、フォーラムのスケジュール表です(F1-2)。

次からの資料が、明日参加者に配るものになっています。まず、「フォーラムへのご協力のお願ひ」(F1-3)です。明日はこれをA3版で2つに折った形で印刷して、中に3枚の資料を綴じこんで配布するという形になります。次が、フォーラム開催のお知らせ(F1-4)です。次が、フォーラム参加者一覧です(F1-5)。最後がアンケートの案です(F1-6)。

それから、明日サブファシリテーターをやっていただく方には、コミュニケーション・マニュアルの冊子をお渡ししております。内容は昨年度に作成したものと一緒ですけれども、例えば6ページ目にメモ部分を作ったりとか、ページを見やすくするような努力をして作っています。参加者には、これをあらかじめお送りしていて、明日持ってきてくださいと言っています。ただ、忘れる方もいらっしゃると思いますので、予備をストックしておきます。明日余りが出たら、今日お配りできていない皆さんにも配れると思いますけど、明日の状況を見ながらということでもよろしくお願ひします。

以上が用意した資料ですが、よろしいでしょうか。では中身に入っていきたいと思ひます。今日は議事を4つ用意しております。最初は、フォーラムに関する情報の確認。これは、F1-1を中心にしてやっていきたいと思ひます。その後、実施アンケートの確認ということで、F1-6の内容を確認します。その後、時間があれば模擬フォーラムをもう1回実施してみて、グループワークの流れを再確認したいと思ひています。

1. フォーラムに関する情報の確認

(木村) 最初は、フォーラムに関する情報の確認です。F1-1 をご覧下さい。確認がてら、読んでいきたいと思えます。

まずは「①観察者の目的」があります。これは我々の視点ということですが、少し確認したいと思えます。斜体で書いてあるところですね。

「ムラびと」と「市民」との協働によって「原子カムラ」を越えるという最終目標に一步踏み出すために、「ムラびと」と「市民」とのコミュニケーションの場（フォーラム）を設計し、「ムラびと」と「市民」の相互作用（ダイナミズム）を学術的に記述し、「原子カムラ」を越えるための要件を洗い出す。

これがこのプロジェクト全体の目的ということになっていますので、ご確認ください。

次に確認しておかなければいけないことは、では、相互作用的变化を起こすためには何が必要なのか、ということで、ひとつには、お互いの解釈・思い込みの変容、価値観の変容、リフレーミング（できごとやものごとのフレームを変化させること）、新しい気づきが起こることが必要だと考えられる、と書いてあります。このフォーラムを通じて何をしなければいけないのか、ということですので、この辺りを念頭に置きながら、いろいろとやっていただきたいと思えます。

続きを読みますけれども、そのために、個人個人の「社会的リアリティ」（その人が生きている世界はどういうものか、誰が周りにいて、どういうことを考えていることが「普通」なのか、ということ）が異なることに「気づき」、それを共有し、尊重するような仕掛け、としてフォーラムを考えているということです。

また、さまざまな市民活動等に参加している人からの意見として、「気づき」という観点からすると、「自分の意見を言う」というよりも、むしろ自分の意見は伏せておいた上で、周りの意見を聴き、場を作っていくという「ファシリテーション」をしていると「気づく」ことが多い、ということから、参加者にもファシリテーターをしていただくという枠組みを考えています。元気ネットの皆さんには、その中でファシリテーターを支援する人（サブファシリテーター）という位置づけで場を回していただきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

②コミュニケーション・フィールドの目的設定。こちらは、参加する人にどう目的をもってフォーラムに参加してもらうか、ということを検討した部分です。検討の結果、フォーラム参加者の目的と観察者側の目的を同じものとする、ということです。したがって、フォーラムに参加してくれる人たちには、「原子カムラ」の境界をどのように越えるのか、そのための仕組みというものはどうありうるのか、ということを考えていくことに協

力してください、という形で参加をお願いしているということになります。

もうひとつ大切なことは、オープンエンドのコミュニケーション・フィールドとする、ということです。このフォーラムを通じて意見をまとめるではなくて、参加者の中で原子力カメラというものの境界をどうやって越えていけるのか、ということを検討してもらう、そして実践してもらうということが目的であるということになりますので、この辺りも再確認をお願いしたいと思います。

インセンティブについては中略をしております。

③テーマ研究、専門家ネットワーク。こちらは、市民と専門家が対等な立場でコミュニケーションする場であるので、あるテーマについて話し合うものではないため、原則として講師は呼ばないということです。ただし、ファシリテーター、サブファシリテーターは必要になってきますので、これは研究実施者および研究協力者が実施すると。

④市民パネル募集、決定、およびワークショップの内容、段取りの決定について。ここは全体の段取りの具体的な話になってきますので、(2) フォーラムの設計と準備というところで代えさえてもらおうと思います。

(2) フォーラムの設計と準備。この辺は定義みたいなのが書かれているのですが、②のフォーラム実施者というのは我々サイドの者ということで、研究実施者として名前が入っている人たち、そして協力者として元気ネットの方々ということが書かれています。

③フォーラム参加者について。首都圏住民 10 名と原子力専門家 10 名を確定しました(資料 F1-5)。首都圏参加者の 1 番から 6 番までは参加申込書から確定しました。ただ、申込者の分布が、社会調査と比較すると少しバランスが悪かったので、その後 7 番から 10 番の方は、年齢と原子力に関する考え方から、こちらでピックアップさせていただいたということです。

一方で原子力学会の参加者はこちらの 10 名で、基本的には原子力業界の専門分野でばらけさせているということになります。あとは、女性が 2 名入っています。実は原子力学会は女性比率が 10%程度の団体ですので、2 名というのは多いのですが、まあ、いいかなということで、2 名にしました。

運営者としては、私から始まりまして、神崎さん、諸葛さん、久保さんが研究者です。そのほかに、PONPO の研究員が 2 名、元気ネットの方が 6 名、PONPO の技術補佐員が 2 名。あとは土田先生が調査側の方としてフォーラムに参加するというので、ベースはこの 15 名ということになります。文科省関係の方や PO が視察にくる可能性もあります。ただし、メディア関係は一切立ち入らないということになります。

—— 1回目はどなたもいらっしゃらないのですか。

(木村) 1回目はいらっしゃいません。POの方には最後のほうの回に来ていただいて、最後の最後の締め一言いただいても面白いかもしれないですね。少しこちらで調整したいと思いますが、原則はこのメンバーでいきたいということです。

これに関して、皆さんには保険にも入ってもらいました。何かあったときにはそちらの保険から補償できるように整えていますので、よろしくお願いします。

—— ひとついいですか。サブファシリテーターのところなのですが、元気ネットは6人ですけど、うち1人は総合司会だと思っていたのですが。

(木村) どうですか。サブファシリテーターというよりは、総合ファシリテーターとして、グループワークのときも全体を見ていたほうがいいでしょうか。

—— そう。グループワークを見ていたほうがいいでしょう。サブをしていると見れないですよ。

(木村) 私も全体を見ている人が1人必要だとは思っていたのですよね。では、お一人は総合ファシリテーターという事で、お願いします。

サブファシリテーターを補充しないと。では、お願いできますか。

他はよろしいでしょうか。各自の動線は、このスケジュール表を見ながら確認をしたいと思いますので、それは後ほどやりたいと思います。

それでは戻ります。次は⑤フォーラムの公開に関する基本方針についてです。これは重要ですので、次のページの基本方針から読みたいと思います。

フォーラムの公開に関する基本方針。フォーラムは非公開とし、フォーラム会場には、フォーラム参加者、実施者および資金提供関係者以外の立ち入りはない。ただし、フォーラムで話し合われている公正性を期すため、話し合われた内容は、チャタムハウスルールを準用して、ホームページに公開する、ということです。下にチャタムハウスルールの説明と、ホームページのURLが載っています。

準用なのでそのままではないのですが、誰が話したか、という個人は特定できない形で、ただし、話した内容はできる範囲で公開するという事です。公開に際しては、最終的には私のほうで議事録を読み直して、これを出しましょうという決定は私に一任をさせていただきたいと思います。

ただ、ご意見をお聞きしておきたいのは、運営側の名前はどうしましょうかということですね。サブファシリテーターは出さなくてもいいかなと思うのですが、例えば、

総合ファシリテーターとか、研究代表者の私とか、神崎さんの名前は出したほうがいいのか、どうなのか、ということです。これは何かご意見ありますか。

—— 私は皆さんの流れで価値観合わせをしていきますので。

(木村) 議事録で、さすがに全員匿名というより、研究者側は名前出してもいいのかなと思うのですが。

—— そうですね。土田先生も。

(木村) でも(土田先生は)基本的にはフォーラムではしゃべらないですから。研究者側が話すのは、開会挨拶と、フォーラムの説明と、コミュニケーション・マニュアルの説明のところくらいですね。

—— 研究代表者が木村先生で、そのあとに土田先生と出ていますから。その3人の名前は出ていますから。

(木村) でも、ホームページに研究者一覧は全部出ていますよね？

—— 研究実施者は出ていると思います。

(木村) そうですね。実施者は出ているから、ホームページを見ればこういう人たちがコミットしているということは分かる。では、研究者の名前は出すと。総合ファシリテーターは、「総合 F」という形で出すようにしますね。そのほうがいいですね。では、そういう形でやっていきたいと思います。

あとは、自己紹介の部分をどの程度公開するかですけれども、そこは全カットですね。では、そういう形で議事録を調整したいと思います。

次にいきます。フォーラムの録音・録画。研究の必要上、参加者の同意の上、録音や録画をするが、これらは、ホームページに掲載する議事録の作成および研究者の学術的分析のみに利用し、その他の利用は一切しない。学会等学術的な発表の場においても、個人が特定される形での公開は、一切しない、ということになっております。実は、写真を撮ろうかと思っているのですけれども、こちらに関しては、学会等学術的な発表の場でのみその写真が公開される可能性があって、ただし、個人が特定されないようにして、その上で、皆さんに確認をとってから行うという手順でやりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。ただし、我々の中でもう1回あの場面を見直したいとか、そういう場合は見られるように、我々として管理するということになります。

次、マスメディアへの対応。マスメディアへの対応は、研究者およびホームページに公開されたデータに基づいて行う。フォーラムへの参加は認めない。研究者までということになりますので、元気ネットさんには（マスメディアが）直接いかないようにということになっております。

以上が記録に関する公開の基本方針です。

⑥フォーラム参加者への謝金。原則1回5000円の謝金、ただし交通費込みということになっています。ただ、遠方から来る原子力学会員の方に関しては旅費を別途払うということになっております。

⑦フォーラムの構造。フォーラムは複数回開催する（原則5回）。今年度は5回開催します。これらのフォーラムの中で、毎回テーマを設定し、そのテーマについて話し合い、意見を共有する。その中ではグループ作業も実施する。なお、フォーラムはオープンエンドのフィールドであり、話し合いの結果、何かしらの結論を求める場ではないとする。繰り返しになりますが、一応繰り返して書いております。

⑧フォーラムのスケジュールやテーマ等。次のページの表3-14をご覧ください。第1回は「原子カムラ」とはなんだろうか？」がメインテーマですけれども、第2回以降は変わらうということになります。原則こういうスタイルを進める予定ですが、流れによっては変わっていきますということに参加者にもお知らせして、柔軟に対応していくというスタイルでいきたいと思っております。第1回フォーラムの後には懇親会が予定されているということ。第5回後は特に考えていないのですが、流れによってはあってもいいかなと思っております。

⑨フォーラムの基本的な進め方。まずは、フォーラム参加者にはファシリテーターを経験してもらおうということ。グループ作業を取り入れるということを考えて設計しています。1. フォーラムの話し合いは、グループワークとし、参加者20名を意見交換がしやすい規模のグループ（3グループを想定）に分けて行う。グループ分けは、公平を期すためにくじ引き（研究実施者が事前に準備）とする。

こちらのくじ引きは、あらかじめ準備してあります。首都圏と学会員で10枚ずつくじがあって、来たときに引いてもらうか、あらかじめ名札に入れておいて名札を引いてもらうかして、AABというのは、つまり1回目のグループワークがA、次もAです、3回目はBグループに行ってください、ということですね。

かつ、最初のAに四角い枠がついていますね。四角い枠がファシリテーターです。そこまで全部くじ引きでセットしていますので、グループワークではそれに従って動いていくと、最低12人と会って、最高が14人と会えると。で、全体の中の9名がファシリテーシ

ョンができるというような形になっています。

—— それは5回分作られるのですか。

(木村) たぶん。ただ、ほぼ一緒にいいのかな。毎回一緒に、どのくじを引くかが変わるだけなので。

—— そういう意味では、くじにちゃんと番号を書いておいて、誰が何番を引いたかをメモしておいたほうが、2回目以降の振り分けは作りやすいかもしれないです。

(木村) そうか、それが分かっていると、記録作成も楽ですからね。各グループに誰がいるのかを特定できるから。

—— 引いて、その裏に自分の名前を書いてもらえば？

—— どちらがいいですか。簡単であれば受付でメモしてもらってもいいですし、これに書いて回収してもいいし。

(木村) 名札に何番っていうのをに入れておいて、何番っていうくじを引いて、何番ですね、って名札を渡すようにすれば、何番が誰かわかる。

—— では、それができるようにしておきます。

—— どういう流れの人がどういう系統にあるか、というのがある程度出てきたら、すごく面白いですよ。

(木村) それは個別に、全部分析していきます。20人なので大変なですけど。個人を特定しながらやるということで、難しい実験ではあるのですが、やっていきたいと思っています。

ということで、くじは決めてあります。

2. グループワークは、基本的に参加者が役割を担当するファシリテーターが進行役を務め、サブファシリテーター（研究協力者）がファシリテーターを援助する。

次のページです。3. グループワークでは、フォーラム参加者が自らの発言を確認する、議論を整理する、意見を共有するなどの目的で、話し合いの見える化を協働作業で行う。

4. フォーラムの最後に、各グループの話し合いの内容を発表し、全体で共有する。

こういうことを根本に入れながらやりたいということです。3番目のポイントに関連して、

コミュニケーション・マニュアルが作られていて、コミュニケーション・マニュアルを少し意識しながら話し合ってもらうことで、自分たちの発言をどう意識しながら話しているかとか、そういうことができることを狙ったものということになっています。

⑩マニュアルの作成。こちらは中略していますが、コミュニケーション・マニュアルのことです。先ほども言いましたけれども、参加者にも全員に配布をしているということ。

⑪フォーラム運営のための役割分担。総合ファシリテーターと（グループ）ファシリテーターとサブファシリテーターという3種類のファシリテーターがあります。

総合ファシリテーターは、フォーラム全体の司会・進行を実施する。フォーラム実施者のうち、元気ネットのメンバーが行う。これは、サブファシリテーターを兼ねず、専任ということをお願いします。

（グループ）ファシリテーターは、フォーラム参加者がグループ作業を行うときに選出される。各グループのフォーラム参加者が持ち回りで実施する。フォーラム参加者は、なるべく多くのファシリテーションを経験してもらう、というような形で入っております。

サブファシリテーターは、ファシリテーターをサポートする。ファシリテーターになるフォーラム参加者は、ファシリテーションを未経験もしくは経験の浅い状態であることが想定されるため、フォーラム実施者のうち、ファシリテーションの経験豊かな元気ネットのメンバーを配置する、となっております。

次に、記録・観察。フォーラムで話されたことは、個人情報が出ないように加工され、ホームページに公開される。この記録を、フォーラム実施者が担当する。また、フォーラム参加者の参与観察を、フォーラム実施者のうち、研究実施者が行う。特にグループワークのときの参与観察になりますが、これは私とこちらに書いてある2人が担当ということで考えております。参与観察の具体的な内容は、後ほど少しディスカッションをさせていただければと思います。

⑫第1回フォーラムの詳細プログラムの策定。次のページの表3-17になります。大きな流れはこちらになります。こちらに関しては、資料F1-4が「第1回フォーラム開催のお知らせ」ですが、こちらの裏面にも第1回フォーラムのスケジュールが載っています。

はじめは【イントロダクション】です。私が挨拶、趣旨説明をして、全員で自己紹介をした上で、フォーラムの進め方について神崎さんから説明があった後、コミュニケーション・マニュアルについて私が説明する、というので1時間20分。全5回のフォーラムの全体のイントロダクションとして配置しようと思っています。

休憩をはさんで、次が【グループワーク】、第1回は「原子カムラ」とはなんだろうか？ということでも話し合います。3グループに分かれて話し合っ、途中でグループを交代する

ということになります。その後、意見共有をします。こちらが2時間弱とっています。

最後に、【振り返り】として30分。最初にアンケートを記入して、それに基づいて本日のフォーラムの振り返りをする。次回のフォーラムについて10分程度お話をし、その後、明日は17時から準備をして、19時までの懇親会を予定しております。

というのがスケジュールになっております。

F1-1に、それぞれ詳細に何をするかということが記載されていますので、こちらを読んでいきたいと思います。最初に「フォーラムの趣旨説明」です。こちらは、フォーラム参加者に対して、フォーラムが何を指すのかを明確に説明するという事です。こちらに関しては、「フォーラムへのご協力のお願い」(F1-3)の1ページ目を使ってお話をすると。ここに書いてある内容についてお話をするというのが最初の挨拶になるのかなと思います。

次に、「自己紹介」が始まります。参加者間の社会的リアリティを共有する第一歩として、参加者の自己紹介を行う。具体的には、参加者は、A4の紙を4分割し、そこに名前、職業、関心事を記入し、それを見せながら、「名前」、「職業」、「関心事」、「フォーラムに何を期待するか」を話すということです。「フォーラムに何を期待するか」は、口頭による紹介のみ、ということになります。また、参加者は、記入した紙を自己紹介後もしばらく名前が見えるように三角形に折って、お互いに顔と名前が一致できるように自分の席の前に置いておく(図3-75)。別途ネームカードもあるが、自己紹介時はより見やすい形のA4の紙を用いる、ということです。

—— 最初はスクール形式で座っていただくのですよね。

(木村) そうです。自己紹介は、前に出てきてやってもらいますか。

ちょっと飛びますが、会場配置図は9ページになります。

プロジェクターを使おうと思ったのですが、使わなくても済むんじゃないかなという感じです。フォーラムの趣旨説明はF1-3の1ページ目を使う。自己紹介もプロジェクターを使わない。フォーラムの進め方も、F1-3の2ページ目以降を中心に、契約的なお話から始めて、ちゃんと皆さんの意見を聞きながら進めていきますよというお話をしますので、プロジェクターを使わない。コミュニケーション・マニュアルについても、重要なところを読んでもらうようにしたほうがいいのかと思っていますので、これも特にプロジェクターを使わない。となると、第1回はプロジェクターを使わないで済むかもしれない。万一つていうことがあるので、一応は準備しておいてください。でも、基本的にはプロジェクターを使わなくて済むと思います。

—— ホワイトボードは1枚ですか。

(木村) ホワイトボードは 1 枚です。あとはスクリーンがあるので、グループワークの模造紙はそこに貼るという形でしたね。

—— 休憩後はすぐにグループワークになってしまうのですね。

(木村) そうですね。マニュアルが説明された後、休憩があって、すぐにグループワークになりますけれども、おそらく、最初に少し説明する必要があると思います。

—— (4つ折りの三角形名札は) 少しの間はその人の近くにおいておいて、グループワークのときに、サブファシリテーターの人がぱっとそれを全部横に貼るというのもいいかもしれない。

—— 司会が顔と名前が一致すればいいわけですよね。グループワークでまた簡単な自己紹介をするわけですよね。名前だけの自己紹介はありますよね。

—— 場所が違うので、貼っちゃってもいいかな。

—— 貼るよりも、(スクール形式の場所に) 置いておいて、全体発表のときに席に戻ってもらうじゃないですか。そのときにそこにあったほうがよくないですか。そこで見たほうが覚えるよね、最初より。たぶんグループワークで発言すると印象に残るから。あの人は何て名前だったかな、そういうパターンが多いですよね。だから机に置いておいてもらって、その人がどこに座ったかを見て、ああ、木村さんっていう人だったんだ、って。

(木村) グループワークのときも持っていきますか？

—— 持っていてもいいですよ。ただ、ちょっと邪魔ですよ。

—— 胸に名札はついているんですよ。それをなるべく上のほうにしてもらえばいいと思います。

—— 名札は、上げると見えなくなるという話だったので、クリップタイプのものを買いました。

(木村) はい、では、そこは大丈夫ですね。

それでは、次のページにいきます。「フォーラムの進め方」について。こちらに関しては、先ほども言いましたけれども、「フォーラムのご協力のお願い」の 2 ページ目からの部分を

神崎さんに説明をしていただく。ある意味では契約的なところもあるので、最後のページの細かい字の部分も、皆さんには了解した上で応募していただいていますけれども、改めて簡単に読みますという形で読んでもらうと。

—— すみません、戻るんですけども、自己紹介は 30 分だから、1 人 1 分ですか。

(木村) スケジュール表 (F1-2) のほうに書いてあります。自己紹介は 1 人 30 秒原則にしています。30 秒原則で、たぶん 1 分になるだろうと。もしくは、スタッフは 30 秒でいいと思うんですけども、参加者は 1 分にしてもいいかもしれません。どちらがいいか悩んだんですけども。20 人は 1 分にして、残りの人は 30 秒ずつ流して、全部で 30 分に収める。可能であればそのほうがいいなと思っているのですが、どちらがいいですか。

—— そうすると、A4 の紙には、座った時点で書いてもらっておくのですか。その場で書いていたら結構時間食いますよね。だから、始まる前に、こういう形で書いておいてくださいということで、座った時点で書いてもらうと。

(木村) そうですね。

—— 関心事、職業、名前って印刷しておきますか？

—— それと、「フォーラムに期待すること」はどこで聞くのですか。

(木村) それも自己紹介のときに。

—— 書かないで言うと。

(木村) やはり 1 分必要ですね。

—— 今、時間のことが出たので、時間のことを聞いてもいいですか。F1-2 は振り返りが 16:30 からになっていて、今説明している F1-1 は 16:40 からになっているのですけれども。

(木村) これは、私がいろいろ考えた結果、全体共有 30 分、振り返りが 20 分だと間に合わないなと思って、全体共有は 20 分にして、1 グループ発表 3 分質疑 3 分くらいにして、ちゃんとアンケートを記入する時間と、それを話す時間を別途取ったほうがいいなということ、変えました。

—— では、16時半が正解なのですね。

(木村) はい。

—— 今のところに関係するのですが、次回のテーマについても、ここで希望を聞くことになっていませんか。

(木村) 聞きます。「次回について」に10分取っています。

2. 実施アンケートの確認

※以下、議題1と議題2が順不同で議論された。

(木村) それに関連して、アンケート案(F1-6)を見ていただきたいと思います。議題が行ったり来たりしていますが、もう順不同でいきたいと思います。

表はQ1からQ4まであります。Q1が、本日のフォーラムに参加して、よかったと思うことは何でしょうか？ Q2が、逆に、本日のフォーラムに参加して、ものたりなかったことは何でしょうか？ Q3が、本日のフォーラムに参加して、あなたの中で、何か新しい「気付き」はありましたか？ あれば、それはどのようなものだったでしょうか？ Q4が、あなたは、次回のフォーラムで何をしたいでしょうか？ と書いています。

普通だと、良かった悪かった、という得点化をするのですが、そんなのをやってもしょうがないので、やめました。

—— 次回のフォーラムで何をしたいか、という聞き方は、いろいろな取り方があるんじゃないですか。こういうワークショップはいやだ、と書かれても困るでしょう。テーマを何にしたいか、ということですよ。

(木村) そうですね。

—— この「次回について」のところで、このアンケートの中で特に言いたいことは言ってもらえますか。

(木村) どうしますか。次回について、特にこれがやりたいという意見をお聞きしたいと思いますけれどもって、その場で決めるようにするか。

それとも、Q4に書いてもらって、回収した上で、運営側で検討して、次回開始するとき

にお知らせします、としてしまうか。どちらがいいですか。

—— ただ、人の意見を聞いて、ああ、もしかしたらこういうのもいいかもしれないって思いつくこともありますよね。疲れた頭で Q4 を書くときはあまり明確に思い浮かばなかったけど、他の 19 人の意見を聞いたら、もしかしたらこれがいいかもしれない、って。私はそのタイプなんだけど。

—— この時間設定は結構面白いかもしれないです。普通、アンケートは最後に付け足しのようにあるけれども、そうではなくて、アンケートを記入する時間がしっかり確保されていて。

でも、これは 5 分しか取っていないじゃないですか。普通 5 分では書ききれないわけがないけれども、まだ途中だと思うけれども、ぜひここで皆で共有しておきたい振り返りのコメントはありますか、ということ saying いただく。それで皆の中に、今日どういうふう to それぞれが自分の身につけて帰るか、というのがここでやっ to ストンと腑に落ちると思うので、すごく大事だと思います。

その最後に、では、特に次回の話し合いのテーマについて、アンケートに書いていただくだけではなくて、ぜひここで共有したい方はいらっしゃいますか、と saying、何か引き出しておいたほうが、皆次回のイメージが沸くんじゃないかなという気がします。いい感じで意見が出れば、皆がそれに対して何か意見を言うと思いますし。

(木村) その場で次回のテーマを決めておいたほうが、2 週間いろいろ考えて、自分なりに勉強してみたりとかしますよね。そのほうが意見は話しやすいのかな。

—— ただ、突拍子もないテーマが出てきて、皆さんがそれに賛同してしまった場合、本当にそれでいいのかな、という点がありますよね。

—— でも、参加者が自分たちの意思で決めたという雰囲気を作ることが大事なのですよ。それを思えば、こういうコーナーはちゃんと作っておいて、皆さんのおっしゃることがあまりにも盛り上がりすぎて危ないなということであれば、お話はそこで受け止めておいて、「では実施者で検討して、すぐにメールで皆さんにお知らせします」とか。そうやって引き取るようにして、幅を持たせておけばいいかなと。

—— 次回のテーマを全員で決めることは大事ですよ。1 回目の「原子カムラ」とはなんだろうか?」は、自分たちが関与しないで決まっているから。

(木村) そうしたら、例えばアンケート記入時間を 10 分にして、でもそうすると振り返

り 10 分じゃきついですよね。アンケート 5 分、振り返り 15 分ですよね。

実はアンケートの冒頭で、「振り返りで特に皆さんに話しておきたいことは、あらかじめ下線を引いておいてください」って下線を引いているんですね。そうすると回収した後の分析も楽なので。単に事務局だけに知らせればいいことじゃなくて、皆に知ってほしいことはどこなのか、というコアが分かるかと思って。

—— 次回のテーマは、本当は皆さんが自分の中で何をやりたいかということよりも、グループワークの最後の発表のコメントを聞いて出てくるんじゃないか、という想定だったと思うのですが。

つまり、グループワークの発表と全然関係ないテーマを設定する人だっているんじゃないかと思うんですよ。本来、グループワークのコメントの中で、何が課題かということが絞られてくるから、それを次のテーマにするのがいいのではないか、という話だったと思うんですけど。そこにちゃんと繋がりますか。繋がれば問題ないのですが。

—— そうすると、全体発表のときに、それぞれのグループで一番大事にしたいキーワードが出てくると思うのですね。3 グループがあるから、3 つのキーメッセージみたいなものがひとつの方向性を向いていたら、次回はその方向性を持っていきましょう、とか。

—— 3 つじゃないですよね。最低 6 個だから、18 個は出てきますよ。

—— ただ、その話している内容の方向性みたいなことが何か明確に出てきたら、それは見えるように残しておくようにできるだけするとか。

—— それは残っていますよね。

だから、このアンケートは、「今日のグループワークの最後の発表の中で出たコメントの中から、次に話し合ってみたいテーマは何ですか?」、としたほうがいいんじゃないですか。そうしないと、全然違うテーマで話し合いたいという希望が出る可能性がありますよね。

—— そうすると、「次回について」は最後ではなくて、全体発表の後に「次回について」を議論すると。

—— そのほうがいいですよね。後でアンケートにも書いてもらうけど。総合ファシリテーターが 3 つのグループの発表を聞きますよね。そこでかなり出るじゃないですか。では、これを聞いて、皆さん、次回のテーマはどうしましょうか、って。

(木村) では、「次回について」は、全体発表の後に 10 分間入れましょうか。

—— そうですね。そのほうが発表の時間が短いのが少し調整される形になると思うので。

(木村) それで10分ずつ繰り下げて、アンケートを書いて、全員が一言ずつ言って、運営側からも締め言葉を言って終わり。そのくらいでちょうどいいかもしれないですね。

—— 振り返りで、いやあ、1日やってみて疲れたけど、思ったより楽しかったとか、そういうのが共有されると、皆が少し明るい気持ちで懇親会に入れると。

—— 専門家の人が、意外と思っていた感じと違った、とか。

(木村) そういう意見が出てくるといいですけど、
そうすると、Q4は要らないですか。

—— でも、全員が言い切れないでしょうから、書いたほうがいいですよ。

—— きっと言えない人もたくさんいると思うんですよ。20人だから。

(木村) では、「次回」ではなくて、「次回以降」と書いたほうがいいですね。次回以降のフォーラムで話し合ってみたいテーマがございましたら、くらいでいいですか。

このアンケートの裏面を見てもらうと、定量的な内容になっています。今日は本当は土田先生がいらっしゃる予定だったんですけども、急遽大学の用事で来れなくなって、それで電話でお話をした結果、Q8は要らないかなという感じだそうです。Q5、6、7は定点なので、どう変わっていくかというのは見ておいたほうがいいかなと思ったんですけども、Q8は少し俗っぽいよねと。これを削除して、自由フォームに変えたらどうでしょう、という話を土田先生としていました。そういう感じでやりたいと思います。

—— Q8のことですけども、原子力発電は安いという話だったけれども、廃炉のことなどを考えたら安くないから、設問自体がおかしいとか、そういう意見が最近あったりするんで、これを外すという話ですか。

(木村) いや、そういうわけではないですね。これはもう1回最初に聞いているので。

—— もうだいぶ時間が経ってしまいましたからね。最初のころからみると、もう要らないかなと。10ヶ月前は違ったんですけど。

(木村) あとは、信頼に関する話を入れるという手もあったのですね。

—— せっかくコミュニケーションの話だから、そういう設問がひとつあっても悪くはないですね。

(木村) アンケートは最初（フォーラム開始前）と最後（フォーラム終了後）はしっかりしたものをやることになっていて、前者に関しては昨年度にやった社会調査をそのまま一冊送っていて、フォーラムの受付時に回収することになっています。最後も、それと同等のものを実施しようと思っていますので、信頼に関しては、まあそれでいいかなと思っていますけどね。

本当は土田先生がいれば、信頼に関する設問を入れるとしたらどういう項目を入れましょうかって相談できたんですけど、今日はいらっしゃらなかったもので、残念ながら難しかったですね。

—— このアンケートは、毎回同じ内容でいくということですね。

(木村) 毎回同じ内容です。ただ、Q4に関しては、最後のほうになつたらなくなりますね。

—— そうですね。今後あるとしたらどんなテーマを話し合いたいですか、にしておかないと。

(木村) あと、土田先生からは、記名にするかどうかについてのメールがあったのですが、そこに関しては、私がアンケートを発送した後にメールが来たので、事実として記名でやってしまったということと。その一方で、それは向こうが嫌だと言わなければ大丈夫です、とおっしゃってくださったんですけど。

あとは、最初に記名でやった分厚いアンケートに関しては、封筒に入れて第1回フォーラムに持参してください、となっているのですね。封筒は封をして、その中身はフォーラム期間中は土田先生しか見れません。我々は一切知らないという条件でやりますので、しっかりとご意見をお書き下さいという形でやっています。

—— それは伝えてあるんですね。

(木村) 添え状に書いてあります。そういう形になっているので大丈夫ではないかという話を土田先生としています。

こちらのF1-6のアンケートのほうも、最初に「本アンケートは、フォーラムと研究をよ

り良くしてしていくために」と書いてあります。これの意図は、研究としての価値を高めるために記名にしていますと。個人を特定して、その個人がどう動いていくかということをしかりと分析できるようにしておかないと、実は学問としても発展しないので、という意味がここに書かれているということです。フォーラムをより良くしていくために、ただと駄目かなと思って、研究としても価値が高いんですよということを、言われたらちゃんと答えられるように書いてあるということです。

—— スケジュールの確認なのですが、最後の「特に言っておきたいこと」というのは全員から聞くということですね。

(木村) そうです。全員です。

—— 最初の自己紹介で言った期待と、最後のコメントで何を言ったかということが大事だということですね。

(木村) そういうことです。

—— 時間は測るのですか。

(木村) 時間は測ったほうが良いと思います。

—— 振り返りの一言は 30 秒でやったほうが良いですね。

(木村) おそらく時間としてもそのくらいだと思います。

—— 全体発表の発表 3 分質疑 3 分というのも厳しいですね。

(木村) ここは本当は 5 分 2 分で 21 分くらいでもいいかなとか、マイナーチェンジはしたいなと思っています。

—— 3 回目のグループワークのファシリテーターの方が必ずしも発表がうまい人とは限りませんよね。本題に入る前に終わっちゃうとか。

(木村) ただ、出来上がりの形が、下のほうにポストイットが出て、それに対してコメントを貼っていくということで、実はディスカッションではないんですね。意見を出すだけ出して、それを記述しましょうというグループワークなので。だからある意味で、こん

な意見が出ていました、って朗読するくらいでいいわけです。

—— そこに自分の考えみたいなものを付け足していろいろ言わないほうがいいですね。

—— 3分って短いですからね。読み切れるかどうか。ある程度要約した形の表現をしないといけないですね。

(木村) 3分だとそうなるんです。5分だと読みあげられるんですね。5分にしますか。

—— そんなに要らないかもしれない。模擬フォーラムのときはたくさん意見が出ましたけど（本番はそんなに意見が出ないかもしれない）。

—— 要約するんじゃなくて、読み上げてもらうんですね。

—— マニュアルでは、読み上げることになっている。

—— 最後に出てきたいくつかの意見のうち、ここはシールが集まっていますとか、ここはやや少なかったですとか、そういうのが大事ですね。

—— そういうことを言わないといけないのですね。書いてあることは、見れば分かることだから。

—— 「全体発表」と「次回について」というのは、全体発表で中心的な方向性を皆が共有して、次回はこの辺が話したいね、というところまで持っていくのを合わせて30分でやると考えればいいですね。

(木村) そうですね。お願いします。

—— グループ発表は、タイムキーパーは何分でチェックしたらいいですか。

—— 基本的には1グループ3分でやってもらったほうがいいですね。質疑が5分くらいになるかな。そうすると8分かける3で24分、そうですね。

—— 例えば、2分30秒で残り30秒の札を出すとか。1分前に出したほうがいいですか。

—— 30秒前でやりましょう。

—— 30 秒前と、終了の札を出すと。質疑応答も 30 秒前と終了ですか。

—— いや、そこは出さなくていいかな。

(木村) そこは出さなくていいと思います。質疑が盛り上がってくれば、続けたほうがいいですし、そのほうが次回につながると思います。盛り上がらなかったら、うまくさばいて次につないで、「次回について」のほうで意見を聞いたほうがいいでしょうね。

—— 自己紹介はどうしたらいいですか。

—— 自己紹介は最初 1 分だから、あと 5 秒とか、あと 10 秒とか？

—— 1 分になったらでいいんじゃない。

—— 1 分になったときに鳴ればいいと。はい。

(木村) いろいろ順序が変わりましたが、F1-1 に戻ります。7 ページ目のグループワークについて読み上げます。

グループ分けとファシリテーターの選出。グループワークは、参加者を 3 つのグループに分けて、3 回行い、各回でグループメンバーを変える。公平を期すため、グループ分けはくじ引き（フォーラム受付時）による。くじにはファシリテーター役も併記することで、各回の参加するグループとファシリテーターが決まる。こちらは準備済みです。

グループワーク。グループワークは 3 回行う。1 回目では、各自が「原子カムラ」について思うこと、考えることをポストイットに書きだして、順番に発表しながら模造紙に貼る。ポストイットは、一般の人と原子力専門家で色分けする。一巡後は、適宜追加の意見を出す。

2 回目は、1 回目の思いや考えを、そのグループに残った人、だいたい 2 名程度ですね、がポストイットを読み上げながら簡単に説明する。他の参加者は、説明を聞きながら、共感する意見が書かれたポストイットにシールを貼る。その後、1 回目と同じ方法でさらに追加していく。

3 回目は、シールが多いポストイットをいくつか選択する。模造紙とポストイットの幅の関係で、最大 7 つくらいだと思います。数が多い場合は、そのグループに参加しているフォーラム参加者が数を絞る。

フォーラム参加者は、それらの意見に何故共感したのか、理由等を紙に記入し、1 人ずつ発表する。紙はポストイット等と同じように、一般の人と原子力専門家で色分けし、ポス

トイット 1 枚に対して 1 枚記入する。理由等が複数のポストイットに該当する場合、該当枚数分記入した紙を用意し、貼る。サブファシリテーターは、その紙に書かれた内容を読み上げながら、対応するポストイットの下に貼る。

というような形で、第 1 回目のワークショップは進めていくと。基本的には、参加者の意見をしっかりと出してもらって、それを共有していくという話です。意見を戦わせていくということは基本的にはしないということになります。

—— すみません、質問が 2 つあるんですけども、まず、2 回目に残った方に発表してもらおうということを、その方にいつ言ったらいいですか。

(木村) そうですね、参加者にどのくらいのガイドラインを渡しておいたほうがいいのか、ということですよ。

—— 最初にそこまで情報をもらうと、頭がいっぱいになりますよね。何のことを言っているか分からないですよ。だから移動しているときに、サブが、残った 2 人に伝えればいいと思います。

—— 1 回目の時点で準備が必要かどうか。残る方に、2 回目のときにこれを発表してもらいます、ということを 1 回目のときに事前に教えてあげるか。それとも、2 回目の移動しているときに、これを発表してもらおうのでよろしくお願ひしますと言うか。どちらがいいかなと思って。

—— 後者でいいと思います。

(木村) もしくは、総合ファシリテーターに言ってもらうか。「2 回目に移ります。席を変わってください」。それで変わってもらったら、最初の導入で、「たぶんグループに 2 名か 3 名ずつ残っていると思いますので、その方がまず最初に出た意見について説明をして、それから次の話し合いに進んでください。あとは、ファシリテーターとサブファシリテーターの進め方に従ってください」、くらいのことを話してもらってから、グループワークに入るといいのかもしれない。

—— このあいだの予行演習では、そのほうがいいねっていう話だったよね。

—— では、グループワーク 1、2、3 のスタートのときに、全体に対して説明しますか。

—— そうしないとグループの進行具合がバラバラになるから、やはり途中途中でそうし

ていただかないと、遅いグループが出てくると思うんですよね。

(木村) では、そういうことにしましょう。

—— このあいだ練習をしたときに、シールの数が多いポストイットから順番に選びましたよね。それで、数が多いものから並べたほうがいいよねっていう話だったんですけど、そのときに、何を選んだかを記録のために読み上げますよね。

それで、B5の半分の紙にコメントを書いて、それぞれ書いた人が発表しますよね。F1-1には「サブファシリテーターがその紙に書かれた内容を読み上げながら、対応するポストイットの下に貼る」とあるんですが、本人とサブファシリテーター、2回読み上げるということですか。

(木村) 1回でいいですね。

—— 本人のほうがいいですね。

—— 対応するポストイットを読んで、貼るだけ。

—— 対応するポストイットを読んだほうがいいですか。

(木村) それを読んだほうが、記録のときにどのポストイットの下に入っているのかが分かるので。

—— それに関連して言うと、図 3-76 だと選ばれた意見に①、②、③って書いてありますよね。最初に読み上げるときにそれをちゃんとやっていただければ、そこから先は①、②という指示語で大丈夫です。

—— では、選んだ番号順に、①は何々、②は何々、③は何々と読みあげて、それから先は、①に関するコメントですと。あとは番号を言えばいいと。

—— そうです。それで大丈夫です。よろしくお願いします。

—— それで、①、②、③は、左から順番に並んでいるんですが、①が一番シールの数が多かったもの、そういうふうに順番を決めておいたほうがいいですね。

(木村) そのほうがいいですね。

—— 多い順に①、②、③、最高で7枚。

(木村) 一応7枚と書いていますけれども、7枚もいくかな。

—— 結構多いですよ。読むだけでも大変ですよ。

(木村) 多いですよ。だから、5枚くらいでもいいかもしれないですね。

でも、これはどうしても外せない、っていう人がいるかもしれないからということで、最大7枚で。

—— そうですね。私の一票だけだけど、これは外せないっていう人もいるでしょうから。

—— シールの数も言ったほうがいいですか。

—— そういうのは見れば分かるので。書き起こしがつらいものだけ読み上げればいいんじゃないですか。

—— じゃあ、番号と内容だけを言うと。

—— まあ、言ってもいいけど、言わなくても大丈夫ですよ。

でも、きつと言っちゃうよね。①は8名もいらっしゃいますね、とか。

—— でも、1枚につき、1人1個しか貼っちゃいけないんですよ。例えば、この意見にものすごい賛成だから3つ、は駄目ですよ。

(木村) そうです。

—— 8個は誰か悪い人がいますよね。7人しかいないから。

(木村) でも、グループワーク1でもシールを貼るんですけど。ああ、1回目は重ねるだけか。

—— それと、ファシリテーターをやっている人も貼るということを忘れないように言わないといけないですね。

(木村) グループワークに関しては、模擬をもう 1 回やってみたほうがいいですね。

では、次にいきたいと思います。次は全体共有です。先ほど話しましたが、「次回について」を全体共有に後にくっつけることにします。

—— 質問いいですか。F1-1 の 4 ページに、今後のスケジュールとテーマ案がありますよね。テーマをどういうところに持っていくかということですが、無理に押し切るようなことはしないようにしますが、あまりにも意見が分かれているとか、イメージが見えないときは実施者側で近日中に決めてお伝えしますと言ってもいいんですが、専門性がなくても市民も一緒に情報共有できて、対等に話せるようなテーマ設定が会場から出てくるようであれば、それはありだと考えている、ということでもいいんでしょうか。

(木村) そういうイメージです。だから、我々が挙げた案でなくても、こういうことだったら市民としても言うことがいっぱいあるし、専門家の意見も聞いてみたい、というようなテーマ設定が参加者から出てきたら、それでいいです。しかも、たくさん出てくるようだったら、次回だけじゃなくて第 3 回、第 4 回も案として組んでみまじょうか、とやっていただいてもいいと思います。

—— 分かりました。では、皆さんのお話を吸い上げつつ、実施者のほうにも振りながら、一緒に決めていくというスタイルでいいですね。

(木村) はい。そのほうがいいと思います。

それで、少し混乱しそうになったら私のほうに振ってもらえば、このフォーラムの意図を説明して、市民と専門家が一緒に考えられるテーマにしたいのです、とか、補足説明ができるようにはしておきますので。

—— 分かりました。そうすると、第 1 回は原子カムラとはどんなものか、というような意見がたくさん出てきて、その中でも次回は、そこで何が課題か、という辺りに話を特化させていったほうがそこが見えてくるんじゃないか、という設計ですね。できればこういう方向でもっていくようにしますが、ということでもいいですね。

(木村) そういうことです。

—— 分かりました。ありがとうございます。

(木村) 次に【振り返り】ですが、今お話したように、まずアンケートに書いてもらって、それで振り返るという形です。

アンケートは、裏面はともかく、Q1～Q3の部分が振り返りのときに特に重要かと思いませんけれども、こういう感じでいいですか。

—— プラスイメージをQ1に書いて、マイナスイメージをQ2に書いて、具体的な気づきをQ3に書くということであれば、話としては非常にいい流れですよ。

—— 「ものたりなかったこと、意外だったことは何ですか？」にしてはどうですか。

—— でも、それはQ3に書くでしょう。

(木村) 「意外」はQ3ですね。

—— 「気づき」と書かれていてわかりますか？ 慣れている人は「気づき」で分かるけど、どうですか？

—— 何に気づいたか、って考えますね。それが「気づき」という言葉に対応しているのかどうか分からないですけれども。

つまり、何が変化したか、ということを知りたいわけですよ。

—— そう。だから、「気づきや意外と思ったこと」とか、もう少し具体的に書かないと、ここが白紙になってしまう気がする。

—— 「あなたの中で新しく気付いたことや発見はありましたか」。

環境学習用語で言えば「気づき」でいいんですけどね。

—— ワークショップに初めて参加した人にすれば、いきなり「気づき」と言われても、専門用語ですよ。

「こんなにせわしない会議だとは思わなかった」って書くかもしれないし。

—— 市民から見たら、「原子力業界で仕事をしているという人に初めて会った」とか。

—— 「意外と普通の人でした」とかね。

—— 思っても、それをここに書けるかどうかは難しいところですけどね。

—— 記名ですし。

(木村) ああ、そうか。そうすると、相互に見せるということはしないわけですから、それは言ったほうがいいのかな。

—— そう、私たち全員が見ると思ったら書かないから、そのことは書く前にお話したほうがいいかもしれないですね。

—— やはり名前は必要ですか。

(木村) 名前を書いてもらったほうが、後にデータにしたときに嘘がないんですね。

—— 個人の変化を見るために名前を書いてもらうんですね。

(木村) そうです。

—— それなら、お互いに見せ合うことはないということだけはアナウンスしておいたほうがいいと思います。

—— 毎回言ったほうがいいかもしれない。

—— 私たちは見ないですね。

—— そうですね。運営者全員が見るかどうかというのは、結構ポイントかもしれないですね。

—— 研究者の先生だけが見るんですよって。

(木村) そうすると、確かに振り返りのときには一部話してもらうけど、提出は封筒に入れて、その封筒は土田先生が調査担当なので、その人しか開けません、としたほうがいいですか。

でも、アンケートに書いてあることをちゃんと読みながら、フォーラムを組み立てていくということは大切ですね。

—— アンケートの内容は、読まないといけないと思います。

例えば、次回のフォーラムのテーマも当日決まってしまうといいですけども、決まらなかったときは Q4 を参考にして我々の中で議論しないといけないですね。

(木村) 誰が、というのが分からないようにすればいいんだ。

—— 名前じゃなくて、1 から 20 みたいに ID にすればいいのではないですか？ で、1 の人がどのように変化したかは、調査する人が分かればいいわけでしょう。

(木村) それをこっちで統制しようとする、結構大変なんですよ。間違えて渡したりすると、もう動かなくなっちゃうので。

だから、土田先生にお願いをして、封筒に入れてもらうけど、アンケートに書いてあることは、個人情報だけを抜いて調査側で管理してくださいと。ただ、自由記述に関してはフォーラム運営側にくださいと。そのほうがいいですか。

—— それは木村先生も生の原稿を見ることはないということですよ。

(木村) そうです。まあ、土田先生がどこまでやったださるか次第ですが。でも、やっただるんじゃないかと思います。

—— でも、例えば Q3 のものたりなかったという部分は、私たちにとってもとても大事ですよ。次回はそこを活かしてどういうフォーラムにしようか、というのを検討しないと。私たちが満足する必要はなくて、参加した人が満足しなければいけないわけだから。

—— 土田先生が名前だけ消した状態でこちらに送ってくだされば、それをここで議論できる、ということになると思います。

—— やっぱり、アンケートを書くときに、今後の参考にしたいので、皆さん、本当の気持ちをお書きください、って言うしかないですよ。

—— 他の参加者に見せないということだけは伝えると。

(木村) その辺りは、アンケートを実施するときに私のほうで補足説明を入れるようにしましょうか。

この後振り返りに入りますけれども、まずアンケートを記入していただきたいと思います。そのアンケートについて補足説明が研究実施者側からありますので、少しお聞きくださいと。それで私か土田先生に振ってもらって。土田先生のほうがいいかもしれないですね。

こちらは記名式のアンケートですけれども、このアンケートに書かれたことで、皆さん

が振り返りで話していただくところは皆に共有しますけれども、あとの部分は基本的には皆様には分からないようになっていきますと。フォーラム実施者としては、誰がどの意見を言ったのか分からないように土田先生のほうで加工した上で、我々として共有して、フォーラムをよくする工夫をしていきますと。ですので、忌憚のない意見をお書きください、と一言言ったほうがいいですよ。

—— 土田先生の前に、木村先生に振ります。今の内容をこれから土田先生に伝えても伝わらない危険性が高いので、木村先生がとにかくおっしゃりたいことはちゃんと伝える。それで、でも担当者の土田先生としては一言言っていただこうと思うので、その後、土田先生に、私が担当ですと言ってもらう。

—— それで、土田先生が直接 1 人で回収すればいいですよ。受付とかは一切関与しないで。受付で回収すると、いかにもスタッフ全員に見られるっていう気がしますよね。

(木村) じゃあ、回収箱に入れてください、ですね。やり方としては、回答が終わったら無地の封筒に入れてもらって、土田先生が回収箱を持っていて、そこにに入れてもらう。

—— そう。土田先生が持っているところに入れればいいですよ。それで安心感があるから。

—— 最初にイントロダクションがありますよね。そこでフォーラムの趣旨説明をされるときに、その時点でアンケートについて触れておいたらいかがでしょうか。改めてアンケートを配布するときに、きちんとしたお話をもう 1 回するというのであれば、初めて聞くよりもちょっと違うかなと思いますけど。

(木村) 一応、「フォーラムへのご協力のお願い」の最後のページにある諸条件というところには、アンケートとは書いていないんですけど、個人情報に連結不可能匿名化して扱う、と書いてあります。それが実はそういう意味なのです。そういう専門用語らしいです。

—— それだけ聞いても全然そういう意味だとは分からないですね。

(木村) そうですね。個人情報の取り扱いについては丁寧に説明してもらったほうがいいのかと思います。

研究の目的として、同一の人間が期間中にどう変化していったか、というのは分かるようにしますけれども、それを学問的に個人情報を特定できるように公開することは一切ないし、それは調査の分析をする過程においても、調査グループのみが分かるように設定し

て、フォーラムグループでは分からないように取り扱うようにしておりますので、ご安心ください、ということを行ったほうがいいですね。

イントロダクションで説明するときも、いろいろと質問が来るんじゃないかと思うんですね。個人情報を書いているので、そういうことについてはどうなっているんですか、という質問が出るかもしれないので、そこに関しては逐一答えていくしかないと思います。

うん、いいよいいよ、と言いながら、記名でアンケートはちょっとな、となる可能性もあるので、やはりアンケートを書く前に 1 回ちゃんと説明する機会をとるようにしたほうがいいですね。

—— 1 回目なので、その辺は、くどいようでも何回か丁寧に話したほうがいいと思います。私も今お話を伺っていて、ああ、そうかって納得しましたから。

(木村) そうですね。個人情報の取り扱いについては特に丁寧に説明するようにしましょう。

これで一通り、第 1 回の話は終わっていると思います。9 ページは会場配置図、10 ページが、2 月の終わりくらいに模擬フォーラムをやったときに出てきた、サブファシリテーターの役割及び注意点です。こちらは、後で読んでから、模擬フォーラムをやりましょう。

その前に、資料 F1-2 の空いている部分を埋めていく必要があります。これは明日のスケジュールですけれども、会場は 11 時から予約しているんですね。なので、11 時に集合ということになります。

11 時に集合して、席配置をしたり、最終のチェックとか、配布資料の整理をやっていきます。12 時半から受付開始になります。振込の情報もあらかじめいっていますので、それも回収します。旅費に関しては神崎さんに一任をお願いします。

—— ええ、旅費は伝票をもう作ったので、印鑑を頂戴したいんですが、それは渡すようにします。

(木村) はい。

資料として、コミュニケーション・マニュアルはもう配布をしていて、持ってきてくださいということをはいるんですけども、忘れる方もいらっしゃると思いますので、そういう方用にこちらで用意をしていて、今日はコミュニケーション・マニュアルはお持ちでしょうかと確認して、なければ配布をするという形にしたいと思います。

あとは、(事前に配布した) アンケートは封筒に入れて回収できると思うのですが、記入してこなかった場合はどうするかというのが問題なのですよね。もう記入して封筒に入れてあるんだけど、持ってくるのを忘れたという場合は、次回に持ってきてくださいで構いませんけれども、まだ記入していないと言われたらどうするか。

—— 仕方がないから、そのときに渡して、休憩時間含めて書いてもらうしかないですね。今すぐ書いてくださいと。

(木村) そうですね。イントロダクションまでは原子力と関係ないですから、そこまでに書いてもらって、休憩中に出すようにして下さいとお願いするということですね。では、何部か用意しておく必要がありますね。

もしあれば、名刺はもらっておいたほうが後々楽かなと思うんですが、どうですか。もらっておいたほうがいいですよ。それもお願いします。

あと、ここにくじ引きが入ります。もしくは、名札に入れておいて、名札をくじ代わりに使ってもらおうか。

—— くじも名札に入れたまま持ってもらうということですか。

—— 名札に入れて、見えないように伏せて、この中から好きなものを取ってください、でいいんじゃない？

—— たとえ見えたとしても、内容は分かっていないんだから。

—— でも、見えると選ぶよね。

(木村) あとは、ネームカードも色分けしておいたほうがいいと思うんですけど、それは大丈夫ですか。

—— 色分けしてあります。ピンクとブルーの紙を用意しています。

—— それを入れて、それで席について自分で書いてもらえばいいわけでしょう。

—— はい。でも名札をくじにすると、その人がどのくじを選んだかというのを受付で記録して残すことができませんよね。

(木村) では、名札はもう渡してしまって、番号は番号でくじ引きにしましょう。

13時からフォーラム開始で、そのときのアナウンスは、

—— すみません、このあいだに自己紹介の紙を書いてもらわないといけないんですよ。

(木村)　そうです。自己紹介の紙の書き方は、どのようにアナウンスしたらいいでしょうか。

—— 受付でやるとごちゃごちゃになるので、テーブルの上に置いておいて、元気ネットの誰かが余っているでしょうから、こういうふうに書いてくださいって 1 人ずつ言ったほうがよくないですか。

(木村)　それが可能だったら、お願いしてもいいですか。

—— その紙も色分けするのですか。

(木村)　色分けしておいたほうがいいですよ。で、テープもあって留めておいたほうがいいわけですよ。

—— 三角形にして、もう広げることはないんですか。自己紹介のときに広げますよね。クリップのほうがよくないですか。

—— 4 つに折れば、テープがなくても大丈夫ですよ。いつもそうやっているから。

—— では、ピンクが 10 枚、ブルーが 10 枚、白が 15 枚ですか。

(木村)　紙は余分に持って行ってください。コメント用紙も足りなくなってきたら作らないといけません。

—— 自己紹介の紙は、私たちも作るんですか。

(木村)　いえ、我々は机がないので、作りません。サブファシリテーターはあってもいいですけど。

—— いらないですよ。サブファシリテーターですって言うんですから。

(木村)　いらないですよ。運営側は、名札の色は白でいいですよ。

—— サブファシリテーターと書いておいたほうがいいですか。

(木村)　どうでしょうか。役割は書いておいたほうがいいですか。

—— そうですね。

—— 自己紹介の紙は、どこに名前を書くか決めておいたほうがいいですね。

—— この紙を作るときに、関心事と職業と名前というのを紙に印刷してくれるんですよね。

—— 先ほどそう申し上げたんですけれども、説明するんだったらいらなかなとも思うし、

—— いや、あったほうがいいです。

—— はっきり書いてあったほうが、皆さん間違いなくその順番で書けるんじゃないですか。

—— 分かりました。

—— 「職業」ですか？ 所属？

—— 所属のほうがいいですよ。

—— 自己紹介の紙の書き方は、ホワイトボードに書いておけばいいんじゃないですか。

—— ホワイトボードに書くということで、印刷しないということによろしいですね。

—— せっかく書いてもらうんだったら、「期待すること」のところは何を書いたかという記録を取っておくと後で楽ですよ。そうすると、名前、所属、関心事、期待。今日何を期待してきたかということのキーワードを、とにかく一言でもいいですから書いておいてもらったほうが、後でまとめたりするときに楽なんじゃないですか。その上で言葉でしゃべってもらえば。

(木村) 書いてもらいますか。

—— 「まったく知らない人と出会えること」とか、きっと皆さん不思議なことを書くと思うけど、最初の一言はそれはそれでいいんじゃないですか。

—— それで、その自己紹介の紙は、持ち歩くんですか。

(木村) 基本的には三角形に折って、スクール形式のところの机に置いているけど、グループワークのときは持っていきません。でも、グループワークのときにも持っていてもらって、簡単な自己紹介のときに使うようにしますか？

—— でも、ごちゃごちゃになってしまいますよね。模造紙があるから。

—— 自己紹介を書くタイミングはいつですか。

(木村) フォーラムが始まるまでにです。

—— やることがあったほうが、いいですよ。

(木村) アンケートを忘れた人は（開始前にやることがいろいろあって）すごく大変です。

—— これを書くときには、あまり細かい字じゃなくて、名前と仕事と関心事とキーワードを大きく書いてもらって、自己紹介で1分で話すときに、これをふくらませて話してもらえばいいわけですよ。

—— 1枚見本を書いておいたらいいんじゃないですか。大きな字で書いてある見本があると思います。

—— それこそ、ホワイトボードに書いておくんじゃないですか。

—— ちゃんと実物の見本が貼ってあるほうがいいと思います。

—— その紙は、受付で渡すんですか。もう机に置いておくんですか。

—— 座るのはどこでもいいんですよ。置いておくと専門家と市民が分かれて座っちゃうことになるから、受付で渡すか、もしくは私たちが聞いて渡す。

—— 最初はスクール形式に座るんですよ。

(木村) スクール形式だから、共通の資料はもう並べておこうかなと思っているんです。そうすれば真ん中が空かないので。

—— そのときは、バラバラに好きに座ってでいいんですか。

(木村) いいと思います。

—— そうすると、この紙は色が違うので、別途渡しに行くわけですか？ それとも受付で渡すんですか？

—— 元気ネットの誰かが、受付が終わった人に聞いて、渡して、好きなところにお座りくださいと言えればいいですよ。

(木村) 1枚渡して、これは自己紹介で使いますので、前のホワイトボードを見て、作業をしておいてくださいと言ったほうがいいですね。

—— そうしないと、グループワーク時の席に座る人が出てくるから、受付が終わったら前にどうぞと言って、紙を渡して、促したほうがいいですね。

(木村) はい、そうしたら、受付はいいですか。

それで、13時からフォーラム開始で、アナウンスは総合ファシリテーターからいただいでいいですか。13時からですけど、その少し前から言ってもらうのがいいと思います。

カメラ・ビデオ係は神崎さんでいいですか。顔を映しちゃ駄目ですからね。特にカメラに関しては、学会で使いたいから撮るのであって。

—— 参加者の顔が分からなくて、実施者の顔が分かるようにするわけですね。

(木村) かつ、なんとなく雰囲気が見えるような写真をうまく撮らなきゃいけないので、よろしくをお願いします。神崎さんを中心に、あとは手の空いている人を使ってください。

トラブル等に関しては神崎さんを中心に、手の空いている研究者でお願いします。場合によっては私も空いているので。

イントロダクションが始まって、最初の挨拶、趣旨説明は私がやります。次の自己紹介は総合ファシリテーターが中心になりながら、タイムキーパーは誰にしましょうか。

—— 私がやります。

(木村) では、お願いします。参加者は1人1分で、内部の人は30秒くらいで流す感じですね。名前と所属と今日の役割を言うくらいですね。参加者は順不同に、専門家も一般の方も一緒にわっと座ってもらって、順番に流していくのでいいかなと思います。

—— だから、最初に座ってもらうのは、なるべく固まらないように案内してくださいね。

—— 最初からピンク、青、ピンク、青で自己紹介の紙を互い違いに置いておいて、専門家は青のところへ、市民の方はピンクのところへ、にしましょうか。そうすると必ず固まらないですよ。

—— そうしましょう。

(木村) 1回目は知り合いの人はほぼいないはずなので。いるとしたら専門家同士です。

—— そうすると、そこに引きずられていって、そこに座ってしまうことはありますよね。

—— だからやはりピンク、青、ピンク、青にしておいたほうがいいですね。

(木村) 次はフォーラムの進め方です。ここに関しては神崎さんが話していただく。

—— マーカーは20本あるんですよ。最初は、スクール形式のところに1本ずつ置いておいて、ワークショップが始まったら、それを全部後ろの3つに分けるということですか。

(木村) それでいいと思います。

—— ひとつ質問なのですが、イントロダクションの部分なのですが、司会役はなしで、それぞれの人が自分が出てきてやるのですか。それとも、私が司会役みたいなことまで通してやったほうがいいのか。それは皆さんどういイメージで考えておられるんですか。

(木村) 最初から最後まで司会進行を全部やっていただいた上で、次は誰々さんお願いします、とやってもらったほうが素直だなと思います。

—— 分かりました。では、できるだけ淡々とやっていくようにします。

自己紹介のところとか、うまく回さないといけないところだけは、うまく回るような呼びかけはします。

(木村) はい。そういう形でお願いします。フォーラムの進め方に関しては、質問も丁寧に受けつけて、10分しかとっていないですけども、場合によっては20分くらいかけてもいいかもしれません。そこは丁寧にやってもらったほうが、後々で面倒くさいことにならないし、倫理的にもこういうところは大切なので。

—— 少し戻るのですが、プロッキーについて、この表の中には2セット3グループ分と書いてあるのですが、黒を多めに用意しておいたほうがいいと思います。

—— 具体的に何本あるんでしょうか。

—— 今、8色セットが3セットあって、木村先生がブルーとか茶色とかいろんな色のものをお持ちだったので、それを使わせていただこうと思っています。

(木村) 黒は少ないのですが、ブルーとか、緑とか、茶色とか、濃い色のものが結構あるので、その辺でカラフルにやっちゃっていいかなと思っています。

—— 黄色だけは外していただいて。

—— オレンジも見づらいので。

—— では、今あるので大丈夫ですね。

(木村) だと思います。

—— それと、タイムキーパーの札は作っていただけるんですよね。

—— はい。「終了」と「30秒前」を作ります。

—— A4の紙で作って、クリアファイルに入れておけば大丈夫ですから。

(木村) 次は、コミュニケーション・マニュアルの説明は私がしますけど、あっさりと言いますので。中身を1つずつ読んだりせず、ポイントだけ話します。

それで休憩があって。お茶の準備は、神崎さん中心で動いてもらっていいですか。

—— 始まる前にしますか。

—— もうすぐ休憩だからって、後ろでござごそやられるとたぶん気が散ると思うので、それはやめたほうがいいと思います。

—— だったら、始めから基本的なセッティングをしておいたほうがいいんじゃないですか。

—— そうですね。お茶は朝買って、おかしも入れておこうかなと思っています。

(木村) 次はグループワークになります。ABCの3班になりますけれども、サブファシリテーターをあらかじめ当てておいたほうがいいかなと思うのですが、組み合わせは決まっていたりしますか。

参与観察は、基本的には、全部書き出すのではなくて、何か特徴的な話があったりしたときに、何を話したのか、どういう感じで進んでいるかが分かるように書くということですね。

—— イメージがつかないのですが、それは書き起こしとは違うわけですね。

(木村) はい。この発言でこの人ははたと気づいたようだ、とか。

—— 普通とは違う特徴的な動きをしたときに、

(木村) そうだけど、特徴だけを書いているとどこでそうなったかが分からなくなるから、その流れが全部分かるようなメモです。まあ、経験がないと難しいのですが。

ただ、そんなにメモできるものでもないで、なんとなくこういう流れで来ています、という中で、この発言は皆が盛り上がったとか、そういうことについて書いておくと。

あとは、書き起こしが記録として出てくるので、それとメモを突き合せて、書き起こしのほうに書き込んでいくことになると思います。

—— ポストイトのひとつの言葉に市民の側から質問が出て、専門家が何か背景を説明したら、皆がはあーとなったとか、そういうことですね。

(木村) そうです。ただ、言葉だけだと、「はあー」で終わるんですよ。だから、言葉だけでは分からない雰囲気や記録する。専門家が説明をして、専門家はうんうんってしているんだけど、市民は首をかしげているとか。そういう状況を書く。

—— ちなみに、(記録のために) 発言の順番を記録しておくという話がありましたよね。

(木村) それはなくなっただと思います。

—— なるべく名前を呼んでくださいと記述してありました。「どうぞ」じゃなくて、「何々さん、どうぞ」って。

(木村) 私たちは、全部の時系列は無理なので、その人が言った内容が分かるような記述と、それに対しての皆の反応がどうなっているかを書く。普通ときは別に構わないんだけど、これは書いておいたほうがいいなっていうときにメモする。

—— ずっと真っ白で、15分くらいから焦りはじめそうですけど。

(木村) そういうことはよくある。書き起こしだけで十分間に合うときはそんなに書く必要はない。書き起こしの記録を見ても、この状況ははっきりいって理解不能だなということに関して、ちゃんとメモを書いておくと。

—— どちらかといえば、グループワーク 1 よりもグループワーク 2 に変化が出ますよね。1 回目は意見出しに終わる可能性があるから。

(木村) 参与観察は、テーブルについちゃ駄目ですからね。少し離れたところで書く。あまりうろうろしているのも嫌がられるから、最初の位置取りをうまくして、少し離れたところでいろいろと観察するという、そういうことをしないといけないんです。

では、グループワークの ABC については、サブファシリテーターのグループ分けをしておいたほうがいいのかと思うのですが。ちなみに、A が市民 3 人、原子力学会員 3 人の 6 人。B が市民 3 人、学会員 4 人のグループ、C が市民 4 人、専門家 3 人のグループになるそうです。

—— 4 人 3 人のところは 4 人のほうからファシリテーターが出るので、B に入ったら専門家がずっとファシリテーターになっているということです。

—— サブはどこでも同じですよ。メンバー変わるんだから。ペアは決まっているんですが、別にどこでもいいですか。

—— B は専門家が多いというのは固定で、人だけ変わるということですか。

—— そうです。人だけ変わります。

—— そうすると、必ず専門家の方がファシリテーターになるわけですか。

(木村) Bはずっと専門家がファシリテーター。Cはずっと市民がファシリテーターです。

—— Bは厳しいかも。強引に止めないといけないかもしれないからね。

—— 当日ここが円滑に回ったほうがいいのであれば、サブファシリテーターはペアだけ決めておいて、どのペアがABCかというのは明日判断では駄目ですか。なぜかという、専門家/市民とはまったく違う、その人の個性で、やりづらい人、やりやすい人がいたりするので。それは自己紹介を聞けば分かるので。

—— ただ、サブファシリテーターはそのテーブルに固定なのですよね。メンバーは変わっていくから、Xさんというすごい人がいても、最初はA班にいたかもしれないけど、次はB班に行くかもしれない。

—— じゃあ、別に気にしなくてもいいのか。

—— では、Aはこの2人。Bがこっちの2人。Cがこちらの2人でお願いします。

—— 細かい話なのですが、一応申し上げておくと、この表で14:20に休憩ってありますけれども、グループワークの組替のアナウンスは、休憩の前のほうがいいと思います。

コミュニケーション・マニュアルのお話が終わったら、これから休憩にしますが、グループワークにチェンジになりますので、荷物をあちらのテーブルにおいていかれるなりしてください、ここでチェンジになりますと先に言って、それから休憩にする、という感じになりますよね。

それで、休憩が終わって皆さんが戻ってきたときに、ではグループワークを始めます、グループワークは3回ぐるぐると回っていきます、というのは私の言葉で説明してしまっていていいですか。

(木村) いいと思います。

—— そのときに、名札の何番についているテーブルに座ってください、っていうところまで案内しますよね。

—— 休憩の前にそれをアナウンスします。これから休憩にしますが、その後、そういうふうに座ってくださいと言って。皆さんのカードに ABC が書いてありますと。

—— それで、どの机が ABC か、決めておいたほうがいいんじゃないですか。

(木村) そうですね。お茶コーナーに近いところが A ですね。残りの 2 つのうちの前側が B です。入り口に一番近いところが C です。

—— テーブルには札か何かを置いておきますか。

(木村) 置いておいたほうがいいですよ。

—— それと、模造紙に「原子カムラってなんだろう？ A 班」「B 班」「C 班」を書くんですよ。

—— それは誰が書くのでしょうか。

—— 各グループのサブファシリテーターが、フォーラムが始まる前に書いておきましょう。

—— 模造紙は 6 枚くらい用意すれば大丈夫ですか。

—— いいんじゃないですか。本来 (1 グループ) 1 枚でやるつもりですよ。

—— では、6 枚くらい用意しておきます。重いので。

—— それと、プロッキーも置いておくといいですね。それと、ABC と書いた札。

—— グループワークのスタートのときに、皆さんにくじの通りに座っていただいて、実は四角で囲ってある方がファシリテーターですということをそこで種明かしすると。そこで皆がひえーって言ったりすると思いますが、とりあえず、席を移っていただくので 3 回分書いてあるということをご話をする。

それで、グループが変わるときに、1 番目と 2 番目が同じ ABC の人が何人かいるけど、その人は動きませんよと、そういうことを伝えればいいわけですね。

1 回目は、まず、原子カムラと言われたらどう思うのかということを書き出して。一般の方だったらピンク、専門家だったらブルーのポストイットに書いて

てください。あとで皆でそれについて情報共有しましょうと。

そのあと、2回目、3回目も同じようなことをやっていくんですよととりあえず言って、1回目はスタートする。

2回目の説明は、1回目が終わってからするということですね。

(木村) はい。そのほうがいいと思います。1回目のグループワークは5分多いですから、そういう説明の時間だと思っていただければ。

—— 3回目のグループワークのときに、3回目のファシリテーターの方が全体共有のときに発表するというのを言っていたら。

—— はい。

—— それから、サブファシリテーターがファシリテーターに促して、ピンクとブルーの違いを説明したりする、というのは削除してもいいかもしれない。

—— (総合ファシリテーターが) 説明してくれるからね。

—— 前回の議事録では、サブファシリテーターがファシリテーターを促してそれをやることにはなっていたんです。でも、それを全体でアナウンスするのであれば、そこを二重にする必要はないかなと思うのですよね。

(木村) 全体でも説明するけど、どうせ意思統一がされないので、そのフォローはサブファシリテーターがやっていただくことになります。

—— 1回言っても、きっと初めて聞いた方には伝わっていないので、準備の通りやっていた方がいいと思います。ただし、全体で1回言わないと、やはり全体が何なのかというのが分からないので、とりあえず私のほうで言いますけど。1回言っただけでは絶対に伝わらないと思います。それは予定通りやりましょう。

—— そのとき、これ(F1-2)は配るものなのですか。

(木村) 配らないです。

—— そうしたら、30分だというのを説明で言っていたらいいと思うけど。

—— 時間の説明は総合ファシリテーターがする。参加者に配るのはもっと簡単なスケジュールですよ。だから細かい時間はないんですよ。

—— そうすると、1回30分ですけど、5分前くらいに合図がいくのがうれしいか、10分前のほうがうれしいか、その辺を決めておきましょう。

—— 10分は長いですよ。

—— では、あと5分でお知らせします。

—— 書きかけのものはまた次のグループでどうぞ、ということなので。

—— とりあえず一通り回っていただければいいわけでしょう。

—— 30分持つかな。そちらのほうが心配なんだけど。

—— 早く終わりそうだったら、合図して早く終わってしまって、最後のほうに時間を回すのはどうですか。

(木村) うーん、ちゃんと話してもらったほうがいいかもしれないです。

—— ただ、それはファシリテーターの力に依存してきますよね。模擬フォーラムのときほどは出てこないですよ。

—— そうですね。市民が4人とも「原子カムラは知りません」だったら、それでもう半分ですからね。

(木村) 何を思いますかで出てこなければ、原子カムラという言葉聞いてどういう印象を持ちますかとか、いろいろ言葉を変えると、そういうことも書いていいのか、という感じになってくるので。一巡して出てこないようだったら、少し言葉を変えてもらって、いろいろなことを考えて出すようにすれば、どうにかなるんじゃないかな。

—— 分からない、という意見だけではなくて、いろんなことを書いてくると思います。原子カムラのことを聞いているのに原子力のことを書いてくるとか、いろいろな方がいると思うので。

—— 例えばこんなことでもいいですよ、というのは伝えてもいいんですか。それは言わないほうがいいですか。

(木村) 例えば、原子カムラって分からないんですよと言われたら、「分からない」と書いていただければいいです、と言ってもいいと思うんですけども。具体的な例は言わないほうがいいです。

—— 言わないほうがいいですよ。

—— 誘導しすぎないほうがいいですよ。

—— 知っていること、印象、あとはどんなことがありますか。

—— イメージとか。

—— 言葉の響きはどう思いますか、とか。

—— 初めて聞いた場合は、初めて聞いた、でもいいわけですよ。

(木村) それでいいと思います。知らない人も結構いるんじゃないかな。

—— 案内に「原子カムラ」と書いてあるので、ある程度はあるんじゃないかなと。

—— 一度は聞いていますよね。

(木村) それに、案内にそれなりには書いてあるのですよね。「たとえばマスメディアやインターネットなどで、原子力発電や原子力政策などにかかわっている人たちのことを、ひとくくりにしてレッテルをはるために使われている言葉です」と一応書かれている。でも、そういう言葉なんだけれども、それは置いておいて、どう思っていたか、そういうのも素直に話してもらって構わないと思っています。

あとは、全体発表、最後の振り返りのタイムキーパーもお願いしていいですか。2人体制でもいいですけど。

—— そう、時間を見る人と、札を出す人と、いたほうがいいし。意見に聞き入っていたりすると、あっという間に過ぎていたりしますからね。

—— 総合ファシリテーターからの目配せとかも1人が注意していて、1人が時間を見ているとか、2人いればできますよね。

(木村) では、タイムキーパーは2人体制をお願いします。

—— グループワークの1、2、3の転換期は、あと5分というのを、私がファシリテーターさんたちに伝わるように、マイクで言っていていいですか。話し合っているのにマイクで聞くと、集中力が途切れるからいやだという人も中にはいるんですが。それとも、私がファシリテーターに見せるとか。3班だからどっちでもできます。

—— ファシリテーターに見せても駄目ですよ。サブに見せないで。

—— でも、5分前だったら、はっとなるから、マイクのほうがいいよね。

—— 皆同時にはっとしたほうがいい。

—— では、あと5分ですとマイクで言います。

—— ちなみに、全体発表のときにサブファシリテーターは何かすることはあるんですか。

—— ないですよ。ちょっと違うなと思って黙っているんですよ。

(木村) はい。ただ、貼りなおすとか、そういうときには手の空いている人に手伝ってもらおう。まあ、それは私たちがやればいいですね。

—— そうですね。分かりました。

—— 全体発表のときは、発表する人はもちろん前に行きますけれども、グループの方はどこにいますか。

—— 前は、全員前に出るという話だったよね。

(木村) 前はそうでした。全体発表はスクール形式でやることになっているので。

—— そのグループの方を促して、前に行ってもらおうと。

(木村) お話をするときは一応全員出てもらって、代表に話してもらおうと。

—— 顔が見えたほうがいいから、出たほうがいいよね。

—— 時間のところなのですが、グループワーク 1、2、3 の時間管理は私がやりますので、それぞれのあと 5 分というのをマイクで言います。

—— タイムキーパーのほうは、キッチンタイマーでやりましょう。ストップウォッチをお借りしても、使いこなせるか分からないから。慣れたものじゃないと駄目なのです。

—— ピピピって音がしたほうがいいから。

(木村) では、タイムキーパーはキッチンタイマーをお願いします。

実はもう 4 時を過ぎています。模擬フォーラムはするならしますけど、どうしますか。

—— 練習なくていいですね。月曜日にやったから。月曜日にやったんですよ。これを見ながら。

—— そのとき気がついたこととか、共有したほうがいいことがあったら、ぜひ。

—— だいたい今日の説明で疑問点は解消しました。ちょっと疑問点があったんですけど、矛盾しているところは今日の説明でなくなりましたので。

—— まとめてくださったので、とても助かります。

—— シールはポストイットの下にまとめて貼りましょう、という注意がありましたね。

—— そう。シールを、あちこちに貼らないで、なるべく下のほうにまとめて順番に貼りましょうと。そのほうがぱっと見たときに分かりやすいので。

—— そういうことをサブがフォローすると。

—— 用意するものに養生テープがないんですけど、どうなのでしょう。

(木村) 養生テープはあったほうがいいですよ。

—— 模造紙をスクリーンの上に貼るとき、セロテープだと弱いし。かといってガムテープだと剥がれなくなっちゃうから。

—— ああ、(リストに) 入っていますね。ごめんなさい。

—— セロテープも各グループに1つずつあるんですよね。

—— あります。

—— コメントを貼るときにいますから。コメントを書く用紙もテーブルに置いてあるということでもいいですよ。

—— もちろんそうです。ピンクとブルーの、B5の半分の紙ですよ。それと、付箋もピンクとブルーで。

—— 確認ですけど、サブファシリテーターは、ファシリテーターにこういうことをやってくださいと言っても、その人がすぐにできなかったら、フォローするような形でやらないと、時間がどんどんなくなりますからね。

—— グループワークの確認なのですが、1回目のところは今までにかなり詳細に議論したと思います。

2回目になりますので、ABCと書いてある、2つ目のグループのところに動いて下さい、とお願いします。動かない人が2人くらいいると思いますので、1回目のときにそのグループでどんなお話が出たか、簡単に説明をしてくださいと。他の方は、説明を聞きながら、共感する意見があったら、シールをポストイットに貼ってください。貼るときには、一般の方はピンク、専門家はブルーを使ってください。シールを貼っていただいたら、その後、ここにまだ出ていないご意見などがあると思いますので、またポストイットに新しいご意見を書いて、発表しあってください。そういうことですね。

一回きちんと説明をしますが、皆さんのほうで、各グループで進めてください。

3回目は、シールが多いポストイットをいくつか選択、といっても最大7つ程度、まあ5つくらいですか。

(木村) うん、5つくらいがいいんじゃないでしょうか。

—— 多いとコメントが書ききれない可能性があるんですよ。このあいだやってみてそうだったんです。

—— では、ここは、5つくらい選択してくださいと。数が多い場合は、そのグループに参加している方で絞ってください。参加者の皆さんは、なぜこの意見に共感したのかを、別に用意してある紙に書いて、1人ずつ発表して、その下に貼って行ってくださいねと言う。30分間でそれを皆で共有してくださいと。その間に皆さんが話し合うことが大事なのですよね。

(木村) ここはどういう話し合いになりそうなのかがまだ見えていないんですよね。

—— 書いて、貼るだけだとすぐ終わりますよね。

—— でも、ここがすごく大事だと思うんですよねとか、いろいろなご意見をおっしゃったら、それに関して他の方にご意見を聞いたりすれば、3回目はかなり盛り上がると思いますよ。

(木村) 3回目は盛り上がりそうですね。2回目のシール貼りのところが30分要らない可能性がある。

—— 2回目は、シールを貼った後、他に意見はありませんかって少し考えて書いてもらって、それについても説明してもらって、皆が共感するかどうかシールを貼ってもらうという作業が必要ですよね。

(木村) そうなのですよ。そこがどのくらい時間がかかるか。シールだけ貼って終わってしまうと、10分で終わってしまうのですよね。

—— その場合はお手洗いとか、そういう休憩にしてください。お手洗い休憩を途中で適宜とってくださいね、と最初にお話すると思うので。2回目くらいで皆さん気力的にはつらいと思うので、少し休憩していただくとか、うまく進めていただければと思います。

(木村) 雰囲気を見て、少し早く終わりそうだったら、グループワーク3のほうが大変ですので、そちらを長めにとってもらえるように調整してもいいかもしれません。

—— 時間配分からいっても、全体共有よりも、3回目のグループワークでそれぞれが何を言うかが、お一人ずつにとっては大事なことになるかなという気もするので。というか、はっきり言って、最後の全体共有でそこに持っていくような時間がないので。やはり3回目大事な気がします。

(木村) そうしたら、グループワーク 2 は 20 分にして、3 回目を 40 分にしましょうか。

—— 3 回目は、最初にまずキーワードを 5 個くらい、番号をつけながら多い順に貼りますよね。そうしたら、その 5 つに対して、なぜそう思ったのかを 1 枚ずつ書いてもらうじゃないですか。そこで時間がかかりますよね。1 人が 5 個に書きたかったら、すごく時間かかるんですよ。ある程度時間を取って書いていただいた後に、それぞれが発表しながら貼ってもらいますよね。

その後、意見交換をするわけでしょう。あるいは、グループ全員に 1 人ずつ何か感想なり言ってもらおうようにしないと、たくさん話す人と黙っている人が出てきますよね。

(木村) そうなのです。だから、グループワーク 2 は 20 分にして、短いかもしれないけど、自己紹介で人の顔を知ることと、共感する意見にシールを貼ることと、プラスアルファの意見を出して、そこに関してはさらにシールを追加するという作業で、さくっと終わらせるかなと。

で、グループワーク 3 は作業量が多いので、かなり長い時間でやるようにしましょうか。

—— では、今のお話のように、グループワーク 2 を短くします。基本的には、共感したポストイットにシールを貼るという作業がきちんとできれば、それでいいとしておけばいいですよ。ただし、もっと意見があるよという人は、そのときに何かおっしゃるだろうから、そういう人には書いてもらって、それにも皆がシールを貼っていくと。そういう形で進めます。

そうすると、10 分プラスになるので、グループワーク 3 と、全体発表のところでうまく様子を見れると。35 分、20 分、30 分にして、全体発表を 30 分にしておきますか。

(木村) 全体発表は 20 分で、「次回について」も入れて、30 分ぐらいのイメージでやったほうがいいかな。

—— そうすると、グループワーク 3 を 40 分くらいにしておいたほうがいいということですね。

(木村) グループワーク 3 を 40 分にしておいていいと思います。

—— それで、グループワーク 3 なのですけれども、全体で一応コメントを書き終えた後に、再度意見を言ってもらわないですか。その意見は書き出さなくていいんですか。

—— その意見が面白いから。

—— そう。それで、もしかしたらコメントには書いていないのだけど、書いておいたほうが良いような大事な話をされることがあるじゃないですか。それはどうしますか。ご本人に、それを書いて貼ってくださいと指示しますか。

—— サブが書いたら駄目なのですか。

(木村) うん、そこはサブファシリテーターが書いて、貼ってもいいかもしれないですね。

—— そこが一番の作業量だと思います。

—— 5つなら5つ、7つなら7つで発表してもらいますよね。その後に、全部に関して話をしますか。それとも、1つ1つのポストイットについて皆で少し盛り上がる？ それだと時間かかっちゃうかもしれないけど。

—— たぶん、ご自分が一番言いたい部分を言うでしょう。

—— まずコメントを書いて、全員が発表し終わった後に、もう1回議論する、がいいですよ。

—— そう。全体を聞いてから。

—— 全体を聞いてどうだったか。それはサブが書く。

—— そして、そのキーワードに関することだったらそこに貼り足すということですよ。でも、選んだポストイットには関係がないけれども、いい意見が出たときはどうするんですか。それは記録をとっているからいいですか。

—— とりあえず書いておいたらどうですか。サブファシリテーターが、違う色のポストイットに。

(木村) ただ、あまりこちらで選択的に書いて貼ってしまうと、不公平感があるので。

—— そうしたら、本人にその場でその紙に書いて追加してもらおう。

(木村) うん、やはり書いてもらったほうがいいですね。

—— 本人にやってもらほうが公平だし。

—— 本人に書いてもらうときは、B5の紙に追加ですか。

—— ううん、ポストイットがいいね。違う色の。

(木村) 黄色のポストイットも1冊ずつ用意しておけばいいですね。

—— 本人の頭の中でそういう交通整理ができたほうが、その後のアンケートに答えやすいと思うので。

—— 確かにそういう意見は出る可能性はありますよね。

—— ありますよね。選んだポストイットに関することだけじゃなくて、全体を通して感じたことを言いたくなりますよね。

—— そこで気付きが出る可能性がありますね。

—— そうすると、グループワークが終わって、せっかくなので全体で、どんなお話があったのかを共有をしましょうと。全体共有に関しては、申し訳ないですが、1グループ3分、質疑応答5分でお願いします。3回目のファシリテーターをやってくれた人に発表をしていただくと。発表していただいた後、質問したいことがあると思うので、それを言うていただく。それから、グループワークのときにいいキーワードが出てきたようなときには、それをぜひ言うていただく。そういう感じで意見共有をすると。

その共有が終わって、そのままつなげて、今のお話を見据えて、次回どんなテーマでお話をするか考えましょうと。1回目は原子カムラってどう思う、というテーマでやったけれども、そこにどんな課題があるのか、少しそういう課題出しができたらいいいですねと。きっと3回のグループワークでいろいろな話が出てくる中で、課題が出てくると。そうすると、やはり皆でちゃんと話し合いたい課題が出てきたので、次回はできればそういう話が出てきたらいいいですねって、柔らかくもっていくと。

そのときに、少し違う意見も出てきたら、それを加えながらやっていく。あまりにも方向性が発散しすぎだなと思ったら、研究メンバーのほうで今のお話を引き取って、次回またちゃんとお話をしますと。

(木村) そうですね。まあ、やってみないとどうなるか分かりませんが。

—— 全員が素直な人とは限りませんからね。

—— その後は、休憩は取らずに、本当に皆さんお疲れ様でしたと。今日お考えのことは、アンケートにまず記入してください。だいたい 5 分程度様子を見て、アンケートに記入し続けていただいて結構ですが、やはり振り返りということで、皆さんに共有しましょうということで、全員に一言ずつ言っていただきたいと。1 人 30 秒で話していただく。これは全部口頭でいいですね。

(木村) はい。あとは、アンケートを書いてもらうときに、振り返りで特に皆さんに話しておきたいことはアンダーラインを引いておいて、スムーズに言えるように準備をしておいてください、と言ってもらうと、回収するだけでアンダーラインがどこにあるかが分かる。

—— 分かりました。アンケートにアンダーラインね。

それで、全員の振り返りの一言が終わって、せっかくなので研究代表者の木村先生、最後の一言ということで、先生に振って終わると。

(木村) そうですね。そうしたほうがいいと思います。

3. その他

(木村) そうしたら、模擬フォーラムをしている時間はなさそうなので、最後の議題です。次回以降をどのように進めていくかについてお話をさせていただければと思います。2 週間おきにフォーラムを開催しますので、その間に準備会を開かないといけない。その準備会の日程を今決めてしまいたいのですが、大丈夫でしょうか。

まず、第 1 回フォーラムが明日、第 2 回が 6 月 8 日になりますが、その間のどこがよろしいでしょうか。

—— 前日とかは駄目なのですか。

(木村) できればもう少し前のほうがありがたいんですけども。準備とかも考えると、ばたばたしちゃうので。

—— 逆に、25日の分の整理が終わるのはいつごろですか。

(木村) アンケートをデータを回収して、それをある程度整理してというと、やはり次の週の頭あたりがありがたいです。たぶん書き起こしは無理だと思いますので、そこまでは求めません。

—— 次の週の頭ということは、6月3日から始まる週ということですか。

(木村) 今日は初回なのでかなり時間がかかりましたけれども、次回はそんなにはかからないかな。でも3時間くらいは必要ですね。

—— グループワークの形がどうなるか次第ですね。まったく同じパターンでいいなら、テーマだけ考えればいいわけですから。

(木村) そうですね。基本的には、型を崩していくと型を説明するだけで時間を食ってしまうので、なるべく型は崩さないで、話し合う時間を長くするとか、内容を濃くするとか、そういう形にしたいと思っています。

—— アンケートで、参加者がファシリテーターをするのは嫌だ、という意見が出たらどうしますか。

(木村) それは、悩みましょう。ファシリテーターをやって、新しいことを気づきました、という意見が出てきたら、いいことですから。

—— それはいいことですよね。でも、ファシリテーターをやったために全然自分が集中できなかったとか、意見が言えなかったとか、出てきますよね。

(木村) そういうのは出てくるかもしれませんが、頑張れと。

—— そうすると、基本的にはグループワークのやり方は同じですね。

—— 参加者にファシリテーターを体験してもらおうというのは、やはりそのほうが自分のこととして考えるので、気付きが多くなるだろうという作戦ですよ。

(木村) はい。

—— 最初に、ファシリテーターを経験する人は、あなただけじゃなくて、皆に順番にやっていたくんですよと言わないと、私はいやだよという人が出てくるでしょうね。

(木村) できるだけ皆にやっていただきますということで。

(日程調整につき、略)

(木村) はい、日程を5回分決めました(第2回研究会:5月31日(金) 13:00~16:00、第3回研究会:6月19日(水) 10:00~13:00、第4回研究会:6月28日(金) 13:30~16:30、第5回研究会:7月12日(金) 13:00~16:00)。

もうひとつ決めないといけないのは、最後のシンポジウムの日程です。実は、原子力学会が9月3日から5日まであって、ここで一通りお話してきます。そこでも宣伝できるので、9月19日とか21日とか、そのくらいまでずらしてもいいかもしれないですけども、いかがですか。

—— やはり土日ですか。

(木村) 土曜がいいかなと思いますね。

—— 参加して下さった方たちが出ることを考えたら、平日は難しい可能性がありますよね。

—— ずっと土曜で来ているから、土曜がいいですよ。

—— 参加した皆さんに、この日を予定しているということをあらかじめ伝えればいいんじゃないですか。それでどうしても駄目だという人はもう参加できないけれども。

(木村) シンポジウムは、参加は必須ではないので。謝金も用意しているわけではないので。一般の参加として来てもらったり、代表として話していただくということも考える、というぐらいの参加です。

—— その代表者には謝金が出るのですか?

(木村) 代表者には、別途出ます。それは講演謝金という形です。

では、14日か16日のどちらかという形で、場所は都内のどこかの会場をセットするとい

うことで、日程を決め打ちしていきたいと思います。

ということで、スケジュールを決めさせてもらいましたので、場所が決まったら連絡をしますので、よろしくをお願いします。

それでは、今日はこれで終わりになります。

以上